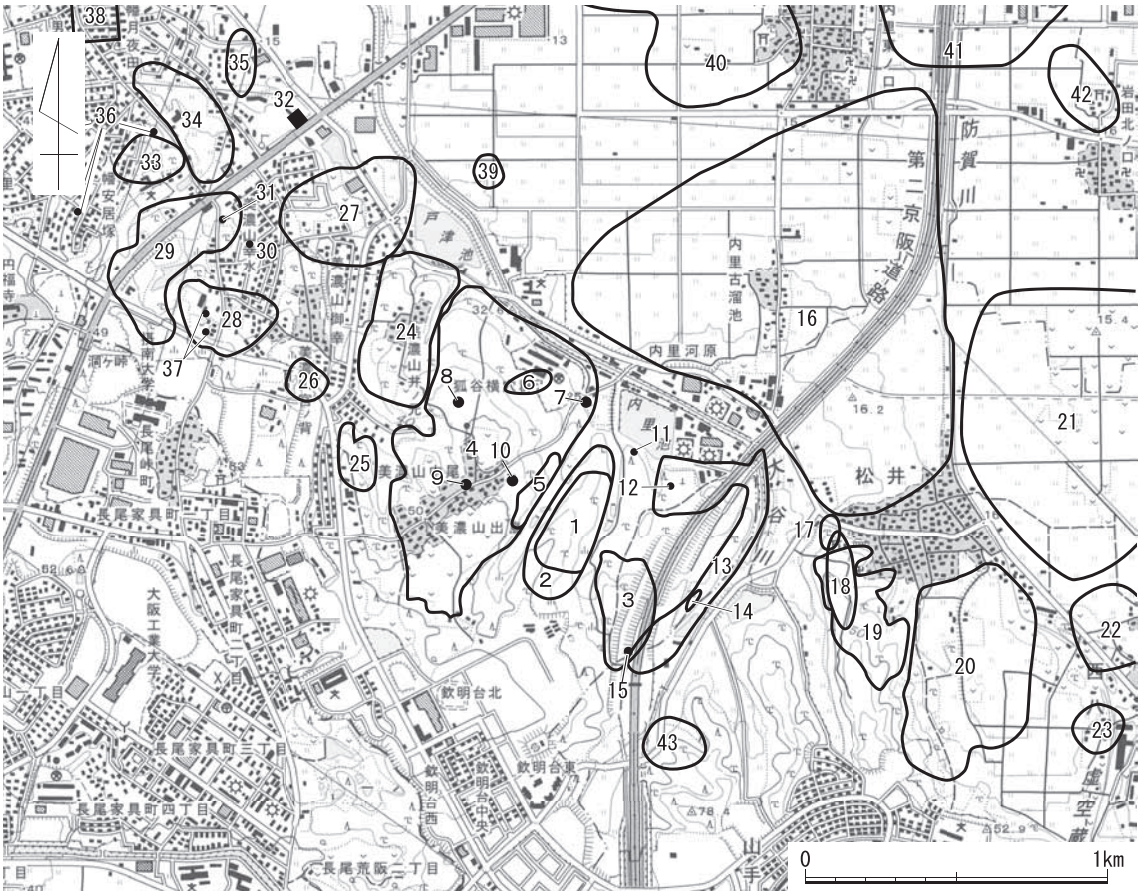
2．美濃山廃寺下層遺跡第８次発掘調査報告

１．はじめに

美濃山廃寺下層遺跡は、八幡市美濃山古寺に所在する弥生時代から奈良・平安時代を中心とする時期の遺跡である。同遺跡と立地がほぼ重複する美濃山廃寺は、奈良・平安時代の寺院跡である。このたび、新名神高速道路整備事業が計画されたことから、西日本高速道路株式会社からの



第１図　調査区位置図（国土地理院　1/25,000　淀）

１．美濃山廃寺
２．美濃山廃寺下層遺跡
３．荒坂遺跡
４．美濃山遺跡
５．美濃山横穴群
６．狐谷横穴群
７．柿谷古墳
８．野神遺跡
９．小塚古墳
10．美濃山大塚古墳
11．内里池南古墳
12．荒坂古墳
13．女谷・荒坂横穴群
14．御毛通遺跡
15．御毛通古墳
16．新田遺跡
17．天神社古墳群
18．向山遺跡
19．松井横穴群
20．向谷遺跡
21．魚田遺跡
22．西村遺跡
23．西野遺跡
24．金右衛門垣内遺跡（井ノ元遺跡）
25．宮ノ瀬西遺跡
26．宮ノ瀬遺跡
27．幸水遺跡
28．西ノ口遺跡
29．備前遺跡
30．東二子塚古墳
31．西二子塚古墳
32．ヒル塚古墳
33．南山遺跡
34．山田遺跡
35．山田東遺跡
36．南山１～５号墳
37．南山６・７号墳
38．志水廃寺
39．五反田遺跡
40．内里五丁遺跡
41．内里八丁遺跡
42．西岩田遺跡
43．口仲谷古墳群

依頼を受けて、事前に発掘調査を実施した。発掘調査で使用した国土座標は、日本測地系の第Ⅵ座標系である。土壌及び遺物の色調は、農林水産技術会議監修の『新版標準土色帖』を用いた。

なお、本報告の作成は調査第２課調査第２係古川匠が担当した。現地調査及び整理等作業に当たっては、京都府教育委員会、八幡市教育委員会を始め、関係機関、地元自治会、近隣住民の方々のご指導とご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

現地調査責任者　調査第２課長　肥後弘幸
調 査 担 当 者　調査第２課課長補佐兼調査第１係長　小池　寛
同　調査第３係次席総括調査員　田代　弘
同　調査第１係主任調査員　引原茂治
同　調査第２係調査員　古川　匠
調　査　場　所　八幡市美濃山古寺
現地調査期間　平成22年12月６日～平成23年３月４日
調　査　面　積　1,500㎡

２．立地と環境

美濃山廃寺下層遺跡が立地する美濃山丘陵は、八幡市西部から南西部にわたって横たわる丘陵である。丘陵では、わずかではあるが旧石器・縄文時代の石器が確認されており、弥生～古墳時代の集落や古墳、横穴、古代寺院の存在が知られている。平野部では、木津川によって形成された自然堤防上で、弥生時代から中世にかけての集落遺跡が発見されている。弥生時代の集落遺跡として、内里八丁遺跡[注1]をはじめ中期の中核的集落跡と位置づけられる金右衛門垣内遺跡[注2]、方形周溝墓群が検出された幸水遺跡等[注3]が所在している。古墳時代には、木津川河床遺跡をはじめ女郎花遺跡[注4]で前期の竪穴式住居跡などが検出されている。一方、美濃山廃寺下層遺跡の近隣には、中小規模の首長墳が点在しており、方墳のヒル塚古墳、大型円墳の美濃山大塚古墳等が挙げられる。後期の柿谷古墳は小規模方墳であるが、鉄製馬具、剣、金銅装胡籙、須恵器などの豊富な副葬品が出土している[注5]。また、この地域の特徴として横穴の多さが挙げられ、美濃山廃寺下層遺跡の周辺にも美濃山横穴、狐谷横穴群等が点在するが、近年、特に美濃山廃寺下層遺跡の東に隣接する女谷・荒坂横穴群で、多くの横穴が発掘調査されている。

７世紀代の創建と考えられている志水廃寺、西山廃寺では、堂塔跡や瓦窯跡が確認されている[注6]。平野山瓦窯は四天王寺の創建瓦を焼成した瓦窯である[注7]。内里八丁遺跡では、古代の道路状遺構と掘立柱建物群が検出されている。この道路状遺構は、古山陰道である可能性が指摘されている。上奈良遺跡は、『延喜式』内膳司に収載される官立の菜園「奈良園」との関係性が注目される遺跡である[注8]。女郎花遺跡では奈良時代から平安時代初頭の大規模な掘立柱建物跡が発見されている。志水廃寺に近く、同寺との関係が看取される。

美濃山廃寺・同下層遺跡における発掘調査は、旧八幡町史編纂事業に伴い、昭和52年度に実施

付表１　美濃山廃寺・同下層遺跡発掘調査一覧

遺跡名	略称	次数	年度	面積	年代	主要遺構	報告
美濃山廃寺	MH	１次	昭和 52	約 70㎡	古代	掘立柱建物	注９
		２次（１次）	平成 11	148㎡	古代	掘立柱建物	注 11・16
		３次（２次）	平成 12	171㎡	古代	掘立柱建物・溝	注 12・16
		４次（３次）	平成 13	255㎡	古代	掘立柱建物・寺域北・西限区画溝	注 13・16
		５次（４次）	平成 14	250㎡	古代	寺域北限区画溝・掘立柱建物	注 14・16
		６次（５次）	平成 15	240㎡	古代	寺域北・東限区画溝・掘立柱建物	注 15・16
美濃山廃寺下層遺跡	MHK	１次	昭和 52	約 70㎡	弥生	竪穴式住居跡	注９
		２次	昭和 62	※試掘	弥生	顕著な遺構なし	注 10
		３次（１次）	平成 11	148㎡	弥生	顕著な遺構なし	注 11・16
		４次（２次）	平成 12	171㎡	弥生	溝ほか	注 12・16
		５次（３次）	平成 13	255㎡	弥生	竪穴式住居跡・土坑・溝	注 13・16
		６次（４次）	平成 14	250㎡	弥生	溝・ピットほか	注 14・16
		７次（５次）	平成 15	240㎡	弥生	竪穴式住居跡・土坑・ピット	注 15・16
		８次	平成 22	1,500㎡	縄文～古代	土坑・ピット・溝状遺構	本報告

括弧内の次数は平成11～15年度の八幡市教育委員会による確認調査の次数を示す。

された第１次調査を嚆矢とする。この調査では、掘立柱建物跡や奈良時代の遺物、弥生時代後期の円形竪穴式住居跡の一部が検出された。その後、平成11年度から15年度にかけて、八幡市教育委員会による範囲確認調査が実施され、掘立柱建物跡が数棟と寺域の外周をめぐる区画溝が検出された。この結果、寺域が東西約90m、南北約90 ～ 120mにわたることが判明した。また、出土遺物から、奈良時代中頃から平安時代前期までの存続が推定されている。

以上のように、美濃山廃寺で計６次、美濃山廃寺下層遺跡で計７次にわたる発掘調査が、主に八幡市教育委員会によって実施されてきた。平成22年度以降からは、当センターによる新名神高速道路整備事業に伴う発掘調査が実施されていることから、今回の調査の現地作業終了後に、調査次数の統一について、関係機関と協議した。また、遺物の整理作業で用いる調査略称についても、統一を図ることとした。詳細は付表１のとおりである。本報告を含め、今後、美濃山廃寺・同下層遺跡では、この次数表記に準じて発掘調査が実施されることになる。

３．調査概要

1）調査区の設定と層序（第２・３図）

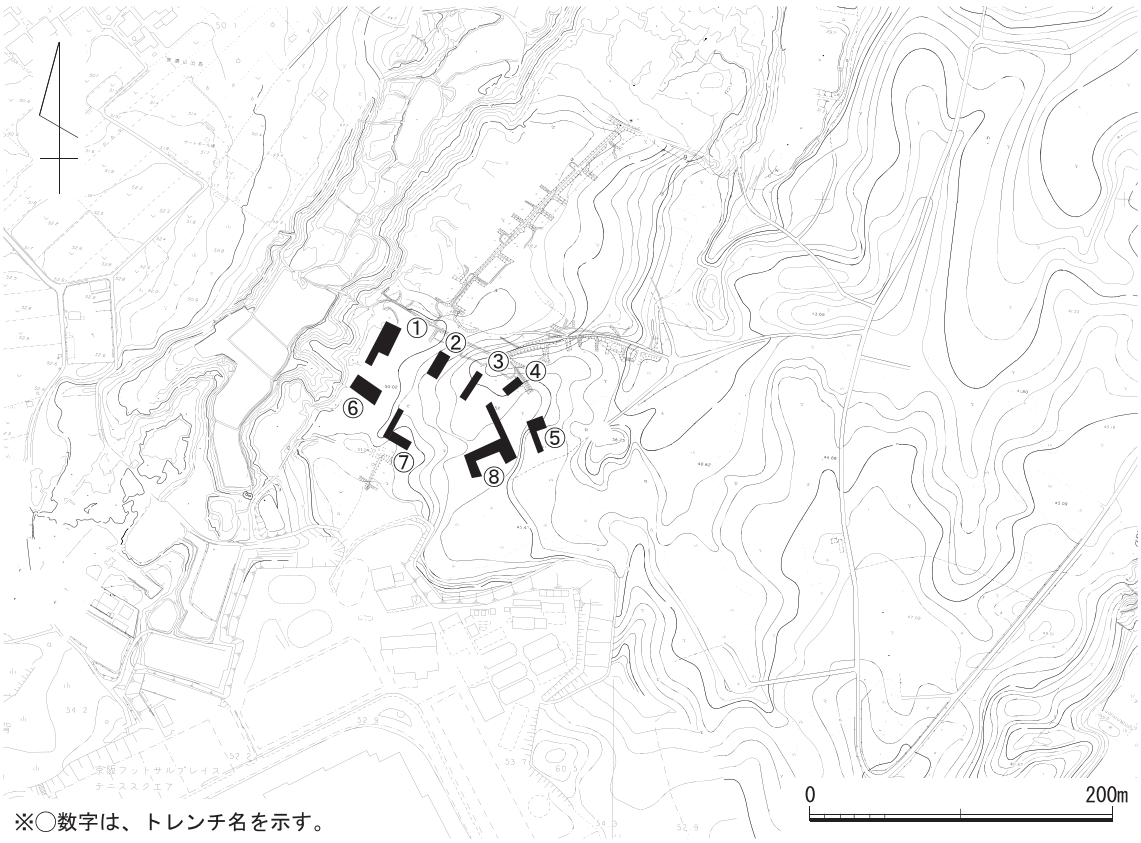
調査対象地は美濃山廃寺の中心部から約200m南の丘陵上にあり、美濃山廃寺下層遺跡の南端部にあたる。調査着手前の現況は竹林であったが、竹林造成以前は、明治時代を中心に茶畑が営まれていた。このような土地活用の履歴を反映するものか、南西から北東にかけて下がっていく段造成が痕跡的に認められる。また、茶畑以降の、近年にかけての竹林造成に伴う地形改変による凹凸も顕著である。今回の調査では、調査対象地内の広範囲にわたってトレンチを分散して設定し、発掘調査を実施した。調査対象地の西北隅に第１トレンチを設定し、東に向かって順番に第２～４トレンチを、さらに南側に、西から東へ向かって第６～８トレンチを設定した。

各トレンチにおける堆積状況を比較すると、個別の分層とは別に、おおまかな単一の尺度によ

る土層の検討が可能である。本報告では、以下のとおり、第Ⅰ層から第Ⅷ層までの層序把握によって、調査対象地の全体的な地形改変の変遷過程の検証を試みることとする。

第Ⅰ層は、黄褐色と褐色土層が、非常に細かく交互に縞状に堆積して構成される層である。堆積状況と調査着手前の地形から、近年の竹林経営に伴う定期的な造成によって形成された層と認定できる。第Ⅰ層からは、近現代の遺物が出土している。第Ⅱ層は、第Ⅰ層直下に堆積する層で、地山を起源とする客土である。色調は、主に黄褐色を呈する。この層は標高の高い地点ではほとんど見られず、対照的に低い地点では厚く堆積する傾向がある。段造成に伴って形成された堆積層の可能性が高い。第Ⅱ層からは、近世の遺物が出土している。第Ⅲ層は、第Ⅱ層と似た土質であるが、黒褐色土が多く含まれる。第Ⅲ層から第Ⅱ層にかけて、色調が黒褐色から黄褐色へと、漸移的に変化している。第Ⅲ層は、第Ⅱ層と同じく、近世以降の造成に伴って形成された堆積層と考えられる。第Ⅲ層からは、弥生時代～古代の遺物が出土している。第Ⅳ層は、黒褐色を呈し、土質が腐葉土に近い特徴を有する薄い堆積層である。第Ⅳ層からは、弥生時代～古代の遺物が出土している。土層の特徴と堆積状況から、第Ⅱ・Ⅲ層が形成された段階の旧表土層とみなせる。

第Ⅴ層以下は、いわゆる「地山」である。第Ⅴ層は黄褐色粘質シルト層である。土質と色調の特徴から、第Ⅱ・Ⅲ層は主に第Ⅴ層を削り出して形成されたようである。なお、八幡市教育委員会による美濃山廃寺の中心部分の調査では、この層の直上で奈良時代の整地層が検出されているが、今回の調査では確認されなかった。第Ⅵ層は、明黄褐色粘質シルト、第Ⅶ層は橙色シルト質粘土である。



第２図　調査トレンチ位置図(1/5,000)

第３図　調査対象範囲地形図(1/1,000)

第Ⅴ～Ⅶ層は、調査対象地の西南部に位置する第６・７トレンチを中心に堆積が確認できるが、東部の第３・４・８トレンチ等では確認できなかった。一方、東部のトレンチでは、第Ⅶ層より下位に堆積する粘土層や砂層、礫層で形成される第Ⅷ層を地山層として検出した。第Ⅷ層は、大阪層群である。

2)第１トレンチ（第４図）

第１トレンチは、調査対象地の北西隅に設定した調査区である。周辺に安定した平坦面が広がっており、また、調査対象地以北に位置する美濃山廃寺の中心部分から、最も近い位置に設定した調査区である。以上の条件から、当トレンチでは、遺構の検出が期待されたが、遺構は皆無であり、遺物も極めて少量であった。堆積状況は、表土直下に厚さ30～40cmの第Ⅲ層が堆積し、直下で地山の第Ⅵ層を検出した。

3)第２トレンチ（第４図）

第２トレンチは、第１トレンチが位置する平坦面から東に下がる斜面に設定した調査区である。表土直下に第Ⅰ・Ⅱ層が堆積しており、表土面から約２ｍ下で地山面を検出した。

4)第３トレンチ（第５図）

表土のほぼ直下で地山面を検出した。調査区の北側が段状を呈していることから、茶畑の造成に伴うものと考えられる。調査区の中央部付近に不定形な溝状のプランを検出したが、断ち割り調査による土層観察から、自然堆積層であることが判明した。

5)第４トレンチ（第５図）

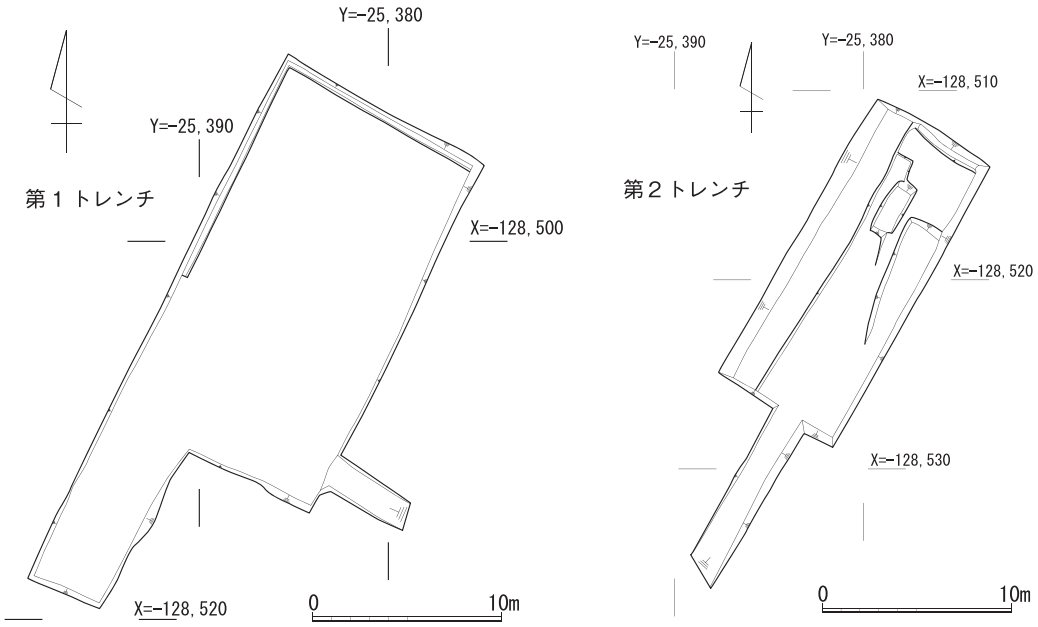
調査対象地の東北隅に位置し、さらに北には竹林用の作業道がある。地山面が北に向かって緩やかに傾斜する。表土、粘土ブロック混じり堆積層の下位で第Ⅷ層を検出した。

6)第５トレンチ（第６図）

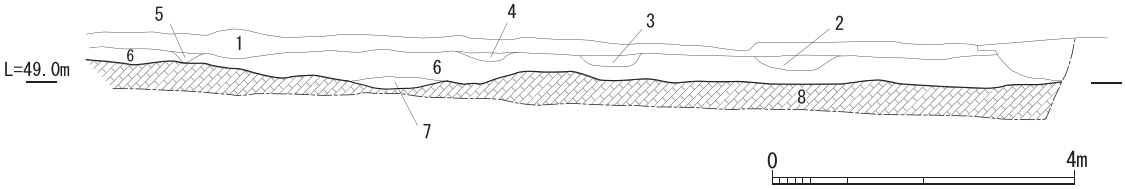
大規模な現代の撹乱層が厚く堆積しており、表土下４ｍまで掘削したが、自然堆積層は検出できなかった。安全保持のため、この深さで掘削を終了した。このトレンチ周辺の地表面は平坦であるが、北東には、南北方向の谷が存在する。現況では埋まっているが、本来は、この谷の内部に位置する可能性がある。

7)第６トレンチ（第６図）

調査対象地の西南隅に設定した調査区である。表土下40～50cmの深度で第Ⅴ層が一面に広がっている。旧地形はほぼ保たれているようで、溝ＳＤ01・04、土坑ＳＫ02、ピットＳＰ05、土坑ＳＸ03を検出した。溝ＳＤ01は幅0.3m・長さ９ｍで、埋土は灰褐色砂質土である。溝ＳＤ04は幅１ｍ・長さ30m以上で、埋土は黒褐色粘質土である。ＳＤ01・04からはガラス片等が出土しており、同様の溝が地表面でも観察されることから、竹林造営に伴う地割溝と考えられる。ＳＫ02は平面規模が1.1m×0.8mの歪な土坑で、深さは0.05mである。埋土は灰褐色粘質シルト層である。ＳＰ05は0.2m×0.4mの規模のピットで、埋土はＳＫ02に近い。ＳＰ05からは瓦片、青磁片が出土したが、掘形が不明瞭で人工的な遺構か否かについては判然としない。ＳＸ03は0.4m×0.15mの土坑で平面形態は方形と考えられる。深さは0.1mである。埋土は、炭化物、焼土から構成さ

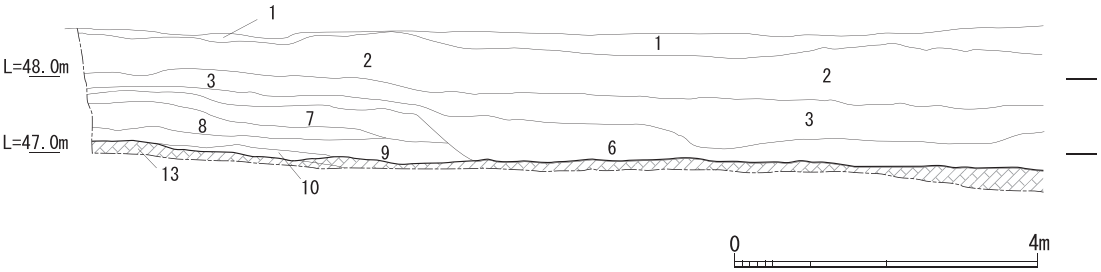


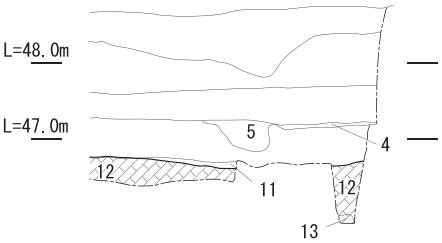
［第１トレンチ西壁］



１．表土
２．黄褐色粘質シルト　10YR5/8
３．明黄褐色粘質シルト　2.5Y4/3
４．明黄褐色粘質シルト　2.5Y4/3　（炭化物、焼土含む）
５．黄褐色シルト質粘土　10YR5/6
６．明黄褐色シルト質粘土　10YR6/8　（橙色シルトを斑状に含む、第Ⅲ層）
７．明黄褐色粘質シルト　10YR6/6
８．明黄褐色粘質シルト　10YR6/8　（締まり強い、地山、第Ⅵ層）

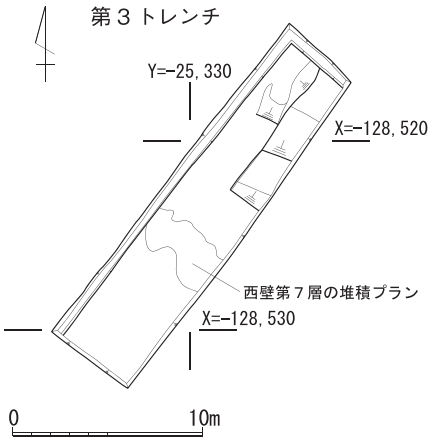
［第２トレンチ西壁］

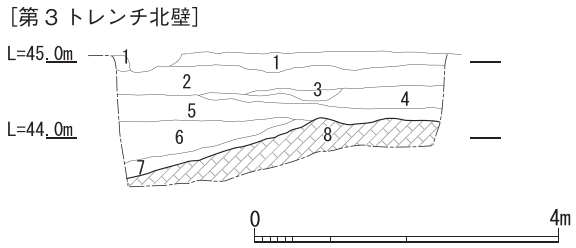




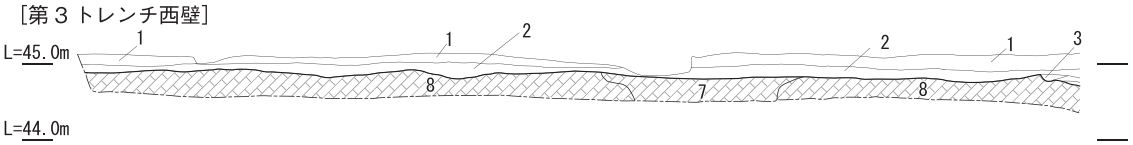
１．表土
２．にぶい黄橙色砂質シルト　10YR6/4
（竹林の客土、第Ⅰ層）
３．にぶい黄褐色砂質シルト　10YR5/4
（黄橙色粘質シルトを少量含む、第Ⅰ層）
４．明黄褐色シルト　2.5YR6/6
（橙色粘土ブロックをわずかに含む）
５．明黄褐色砂質シルト　2.5YR7/6
（灰白色粘土ブロックを少量含む）
６．黄褐色粘質シルト　2.5Y5/6　（第Ⅱ層）
７．明黄褐色シルト　2.5Y6/8
（砂粒わずかに含む）
８．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
（粘土ブロックを多く含む）
９．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
10．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
11．明黄褐色シルト　2.5YR6/8
12．明黄褐色極細砂　2.5Y6/8
（地山、第Ⅴ層）
13．浅黄色砂質シルト　5Y7/3
（10よりやや粘質、地山、第Ⅴ層）

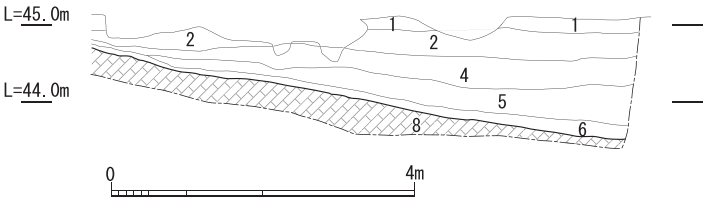
第４図　第１・２トレンチ平・断面図



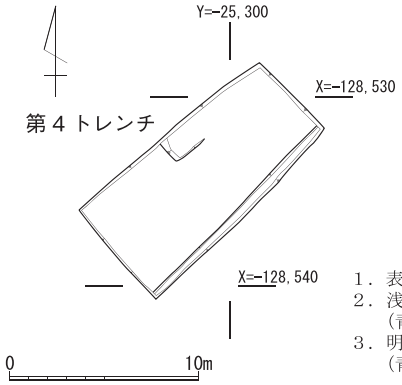


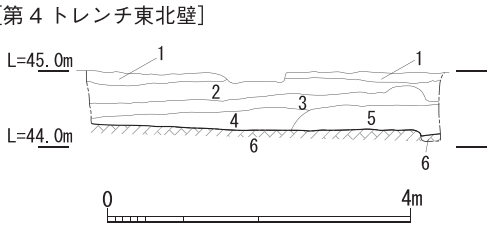
１．表土
２．黄褐色粘質シルト　10YR5/6
（白色粘土ブロックを含む）
３．明黄褐色シルト　2.5Y6/6
（細かい灰色粘土ブロックを含む）
４．黄褐色粘質シルト2.5Y5/6　（細かい灰白色粘土ブロックをわずかに含む）
５．にぶい黄色粘質シルト　2.5YR5/4
６．黄褐色粘質シルト　2.5YR6/4
７．黄褐色粘質シルト　2.5Y5/4
（粘質がやや弱い、第Ⅳ層か）
８．にぶい黄色シルト　2.5Y6/4　（第Ⅴ層、下位に第Ⅵ層が堆積している）



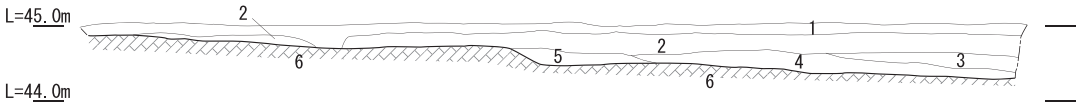


１．表土
２．北壁第２層と同一層
３．にぶい黄色シルト　2.5Y6/4（細かい橙色粘土ブロックを多く含む）
４．北壁第５層と同一層
５．北壁第６層と同一層
６．北壁第７層と同一層
７．にぶい黄色ブロック質シルト　2.5Y6/4
８．北壁第８層と同一層（地山）



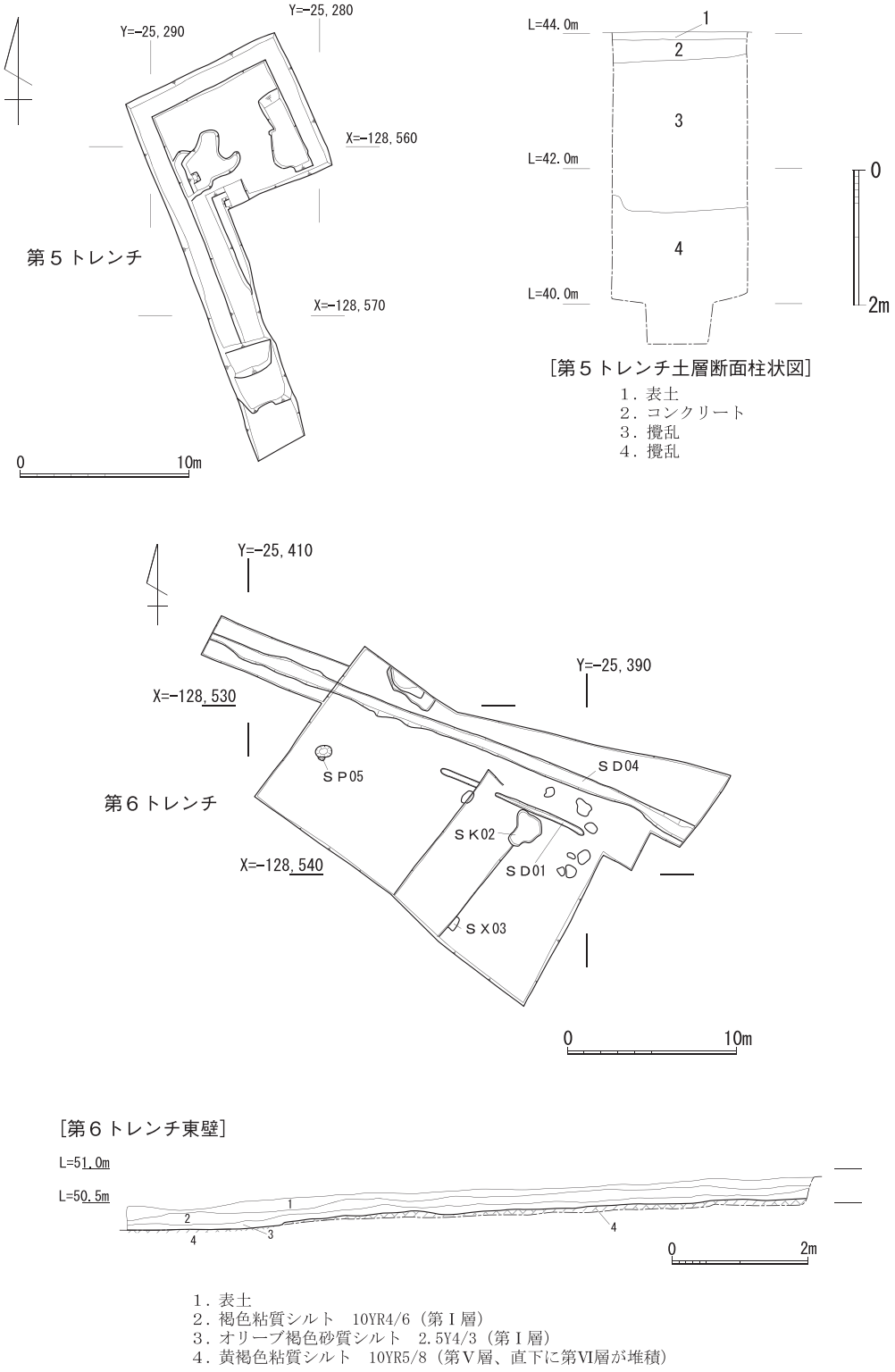


１．表土
２．浅黄色砂質シルト　2.5Y7/4
（青灰色粘土ブロックをやや多量に含む）
３．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
（青灰色粘土ブロックを少量含む）
４．黄褐色砂質シルト　2.5Y5/4
（青灰色粘土ブロックを少量含む）
５．明黄褐色シルト混じり極細砂　2.5Y6/6
（青色砂質粘土ブロックを少量含む）
６．灰白色粘土　7.5Y7/2　（ブロック質、地山、第Ⅷ層）



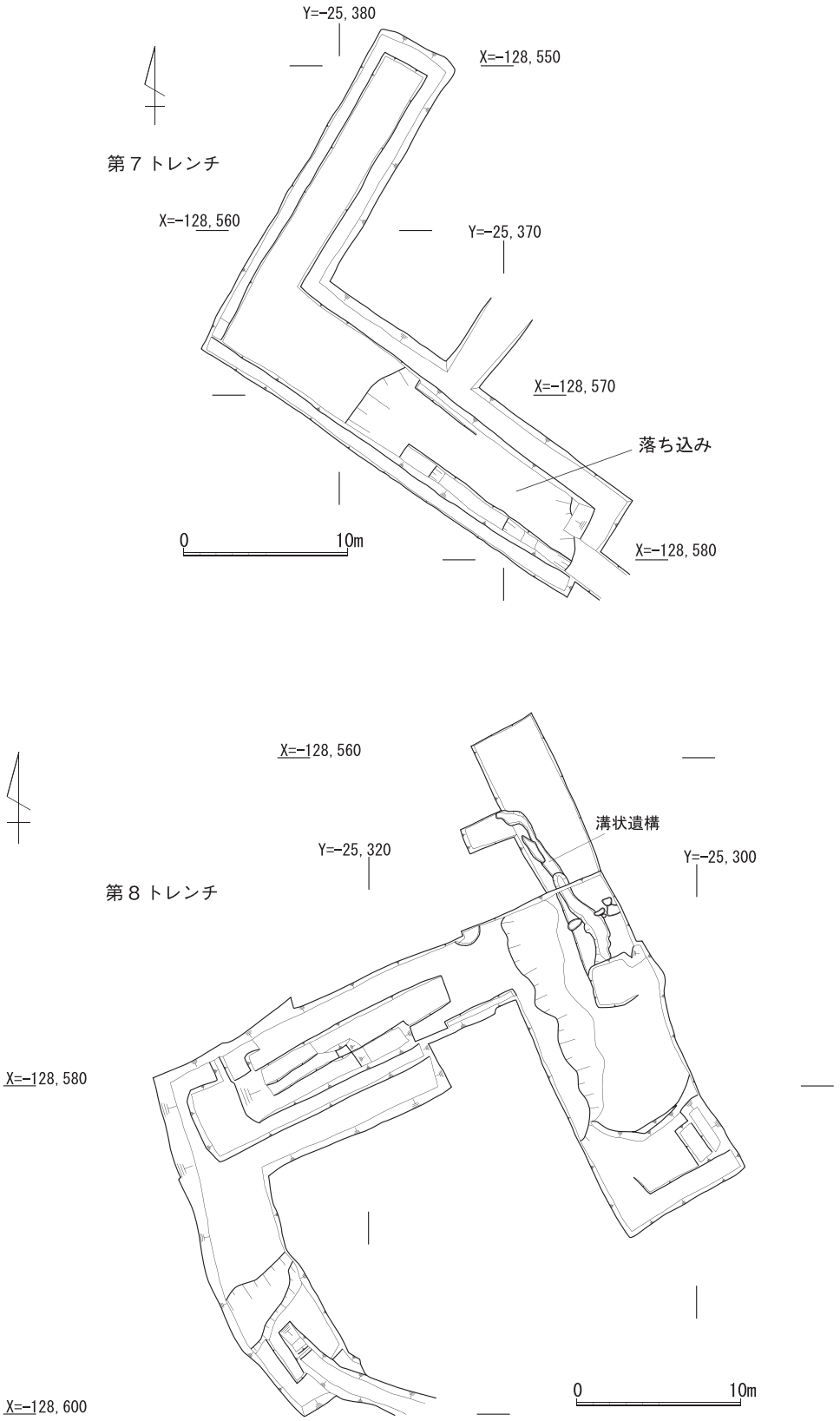
１．表土
２．東北壁第２層と同一層
３．東北壁第３層と同一層
４．東北壁第４層と同一層
５．浅黄色シルト　5Y7/4　（青灰色粘土をわずかに含む）
６．東北壁第６層と同一層　（地山）

第５図　第３・４トレンチ平・断面図



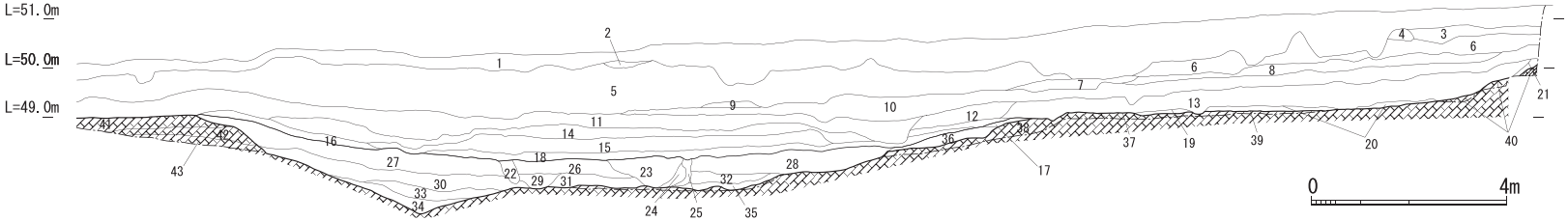
第６図　第５・６トレンチ平面図・西壁断面図

れる。ＳＸ03については、美濃山廃寺に伴う生産遺構の可能性を想定し、調査区を拡張して調査したが、遺構の広がりは確認できなかった。同様の堆積層が他のトレンチの第Ⅱ・Ⅲ層の中で確認されており、図示した中では、第５図の第１トレンチ西壁第３層が相当する。 ＳＸ03についても、近世の山林造成に伴う堆積層の一部の可能性がある。



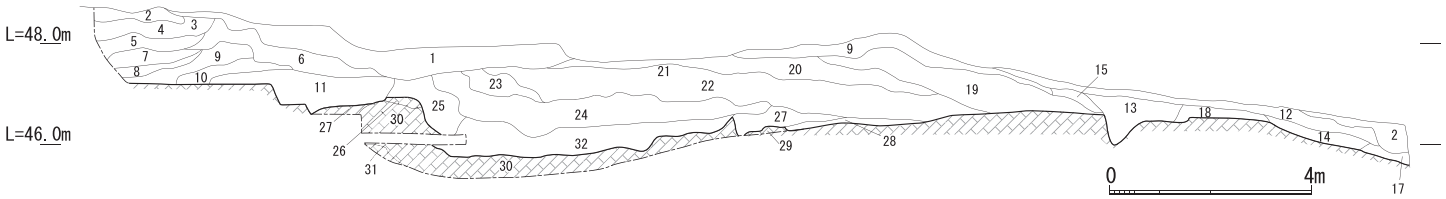
第７図　第７・８トレンチ平面図

［第７トレンチ南壁］



1．表土
2．にぶい黄橙色砂質シルト　10YR7/4
3．黄褐色シルト　10YR5/6（少し粘質、灰褐色シルトが縞状に薄く混じる）
4．褐色シルト　7.5YR4/4（黄褐色ブロック含む）
5．明黄褐色砂質シルト　2.5YR5/6（径 10mm 程度の亜角礫をごく少量含む）
6．黄褐色砂質シルト　2.5YR5/6
7．にぶい黄褐色砂質シルト　10YR5/4
8．明黄褐色シルト　10YR6/8
9．黄褐色粘質シルト　10YR5/6
10．明黄褐色粘質シルト　10YR6/8（白色シルト質粘土を少量含む）
11．黄褐色粘質シルト　2.5Y5/6
12．にぶい黄褐色粘質シルト　10YR5/6
13．黄褐色シルト質粘土　2.5YR5/6
14．黄褐色シルト質粘土　10YR5/6
15．黄褐色粘土　2.5YR5/6
16．オリーブ褐色シルト質粘土　2.5YR4/3（径 15〜30mm 程度の亜角礫を少量含む、第Ⅳ層）
17．オリーブ褐色シルト質粘土　2.5YR4/3（径 15〜30mm 程度の亜角礫を少量含む）
18．黄褐色シルト　2.5YR5/6（径 15〜30mm 程度の亜角礫を少量含む、第Ⅳ層）
19．明黄褐色シルト質粘土　10YR6/8
20．明黄褐色粘質シルト　10YR6/6
21．黄褐色粘質シルト　10YR5/6（地山あるいは崩落土）
22．にぶい黄色粘質シルト　2.5YR6/4（礫を少量含む）
23．黄褐色シルト　2.5YR6/6（礫をやや多めに含む）
24．明黄褐色シルト質粘土　2.5Y6/6
25．明黄褐色粘土　2.5YR6/6
26．明黄褐色粘土　2.5YR6/6（ごくわずかにシルト混じる）
27．明黄褐色シルト　10YR6/8（やや粘質）
28．明黄褐色シルト　10YR6/8（やや粘質）
29．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6
30．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
31．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
32．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
33．明黄褐色砂質シルト　2.5YR7/6（茶褐色粒子を含む）
34．明黄褐色砂質シルト　2.5Y7/6（17 より色調明るい）
35．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
36．明黄褐色シルト　2.5Y6/6
※(22〜36 は落ち込みの埋土)
37．明黄褐色粘質シルト　10YR6/8（第Ⅵ層）
38．明黄褐色シルト質極細砂　10YR6/8（粒径５〜10mm の亜角礫をやや多量に含む、第Ⅵ層）
39．明黄褐色粘土　10YR6/6（明青灰色粘土が斑状に混じる、第Ⅵ層）
40．明青灰色シルト質粘土と明黄褐色シルト質極細砂が混じる（地山、第Ⅶ層か）
41．灰白色粘土　7.5Y7/1（黄褐色粘質シルトをブロック状に含む、地山、第Ⅷ層）
42．明黄褐色砂質シルト　10YR6/6（細粒砂を多量に含む、地山、第Ⅷ層）
43．黄橙色粘質シルト　10YR7/8（細粒砂を多量に含む、地山、第Ⅷ層）

［第８トレンチ西壁］



1．排土
2．表土
3．灰白色粘土　2.5GY8/1
4．明黄褐色シルト質極細砂　2.5Y6/6
5．明黄褐色シルト質極細砂　2.5Y6/6
6．あさぎ色ブロック質シルト　2.5GY7/3
7．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/8
8．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6（青灰色粘土ブロックを含む）
9．明黄褐色砂質シルト　10YR6/6（青灰色及び灰白色粘土ブロックを含む）
10．明黄褐色ブロック質粘土　2.5Y7/6（白灰色粘土をごく多量に含む）
11．６と同一（灰白色粘土をごく多量に含む）
12．黄褐色砂質シルト　2.5Y5/4（砂粒を多量に含む）
13．にぶい黄色粘質シルト　2.5Y6/4（根株痕）
14．明黄褐色砂質シルト　3.5Y7/6
15．明黄褐色シルト質極細砂　2.5Y6/6
16．灰白色ブロック質粘土　7.5Y8/1（黄褐色砂質ブロック混じり）
17．明黄褐色シルト　2.5Y6/6（地山）
18．にぶい黄色砂質シルト　2.5Y6/4
19．灰白色シルト質粘土　10Y8/1（締り強い）
20．淡黄色ブロック質シルト　2.5Y8/3（締り弱い）
21．明黄褐色ブロック質シルト　2.5Y7/6
22．明黄褐色ブロック質シルト　10YR7/6（灰白色の大きな粘土ブロックを多量に含む）
23．灰白色極細砂混じり粘土　2.5Y8/1
24．明黄褐色シルト　2.5Y6/8
25．灰白色極細砂混り粘土　7.5Y8/1（ブロック質）
26．明黄褐色極細砂　10YR6/8（地山、第Ⅷ層）
27．明黄褐色砂質シルト　10YR6/8（灰白色粘土を少量含む）
28．明黄褐色シルト　2.5Y7/6
29．灰白色粘土　5Y7/2（地山、第Ⅷ層）
30．明オリーブ灰色粘土　2.5GY7/1（地山、第Ⅷ層）
31．30 と同一（30 よりやや色調明るい）
32．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6（青灰色粘土ブロックを含む）

第８図　第７トレンチ南壁・第８トレンチ西壁断面図

8)第７トレンチ（第７・８図）

第６トレンチの東側に設定したトレンチである。客土が厚く堆積しているが、本来、東に傾斜する緩斜面であったようである。顕著な遺構は検出されなかったが、旧地表面である第Ⅳ層から弥生土器と瓦片が少量出土した。遺物の外面は摩滅しており、高い地点から転落してきたようである。なお、トレンチの東半分は自然の落ち込みであり、この埋土上層より、サヌカイト製の打製尖頭器が１点出土した。落ち込みの断ち割りを行い、共伴遺物等の確認調査を行ったが、他の遺物は出土しなかった。

9)第８トレンチ（第７・８図）

調査区の南東隅に設定したトレンチで、平坦面から南東へ下りる斜面地に位置する。全体に堆積層の残存状況は悪く、特に南斜面は傾斜が急激で、顕著な地形改変がなされたようである。東・南斜面から古代の須恵器、土師器、瓦片が少量出土した。また、東斜面直下で南北方向の溝状遺構を検出したが、平面形態が不定形で直線的な形状にならないため、寺院関連施設の溝とは評価しがたい。

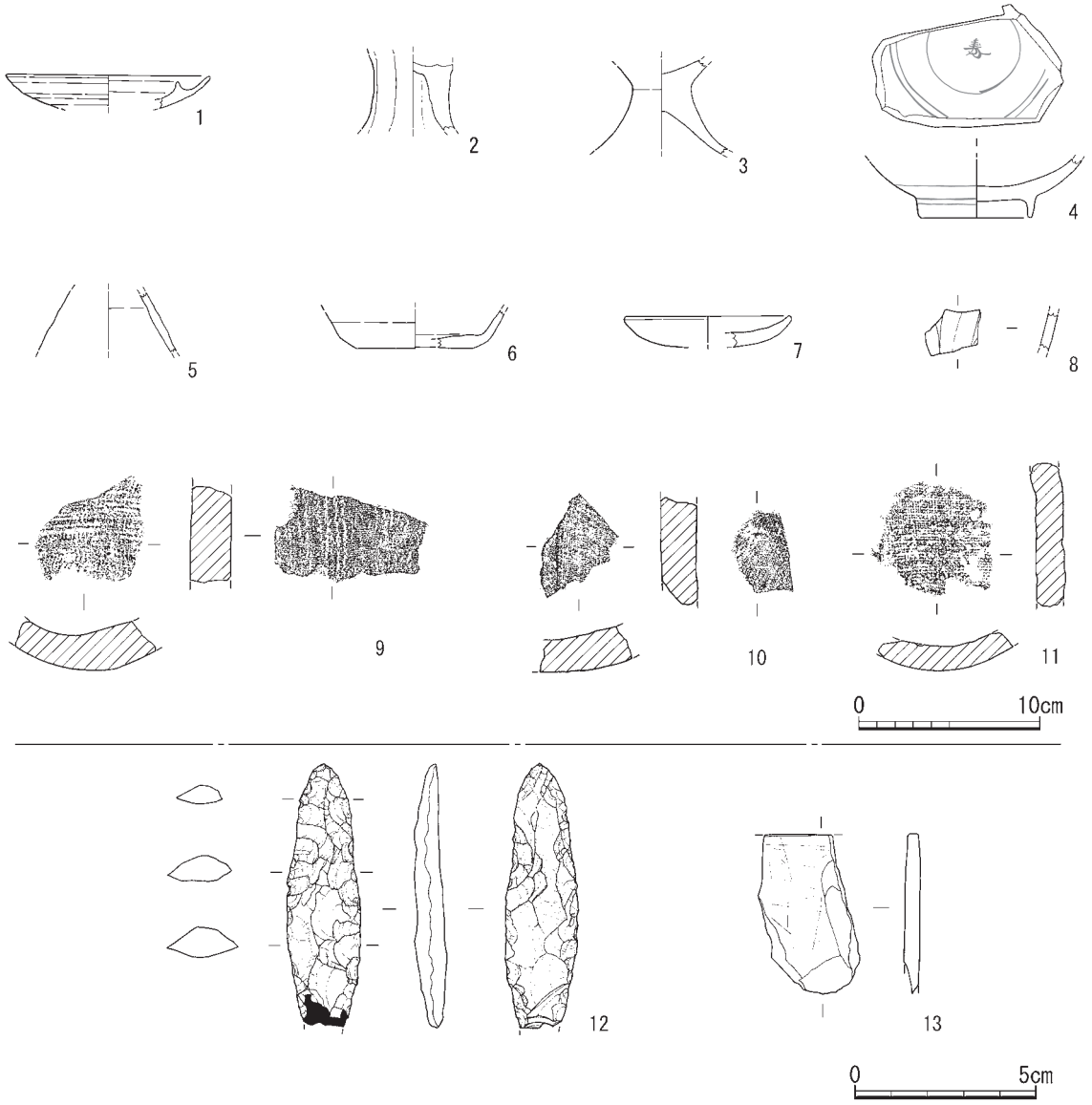
４．出土遺物（第９図・付表２）

１～４は、各トレンチの調査区壁から出土した。１は陶器灯明受け皿である。２は弥生土器高杯脚部である。３は弥生土器高杯脚部である。第Ⅲ層から出土した。４は染付椀である。見込み部に「寿」字が手書きされる。これらの土器は第Ⅲ層から出土した。５は第Ⅳ層出土の高杯脚部である。６・７は第８トレンチの斜面から出土した土器である。６は須恵器杯Ａ、７は土師器皿である。８は第６トレンチＳＫ05 出土の中国産の青磁蓮弁文椀である。９～11は各トレンチ出土の瓦片である。９は丸瓦で、内面に布目痕、外面に縄目叩き痕が観察される。今回の調査で出土した瓦は、全て奈良時代から平安時代にかけての瓦である。12はサヌカイト製の打製尖頭器である。第７トレンチの落ち込みの埋土最上層から出土した。基部の表面が少し欠損するため、出土地点周辺の埋土をふるいにかけたが、同一個体の破片は出土しなかった。土器が共伴しないため、帰属時期は不明確であるが、縄文時代草創期から早期頃の遺物と考えられる。13は粘板岩製の磨製石器破片である。第６トレンチ調査区壁第Ⅱ層から出土した。石包丁などの破片と考えられる。

５．まとめ

今回の調査では明確な遺構は確認されず、瓦、須恵器等の古代を中心とする時期の遺物が少量出土した。何らかの施設の存在が近隣に想定されるが、寺院関連施設を示す証拠は得られなかった。後世の土地開発によって、遺構は消失したようである。

古代以外の時期の様相をみると、第８トレンチの落ち込みの埋土、近世の造成土と考えられる第Ⅱ層および第Ⅲ層、また、近世の旧表土と考えられる第Ⅳ層から、縄文時代から近世の遺物が出土した。また、１点のみではあるが、ピットから中世の青磁椀の破片が出土した。周辺の調査



第９図　遺物実測図

では、美濃山廃寺下層遺跡第２次調査で谷の中から瓦器が少量出土している以外、中世の遺物は発見されていない。今回の第８次調査で出土した資料は、小破片ではあるが、中世段階にも美濃山が土地利用された可能性を示唆する資料である。　（古川　匠）

注１　竹原一彦・森下衛『内里八丁遺跡』Ⅰ（『京都府遺跡調査報告書』第26冊　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1999
森下衛・柴暁彦『内里八丁遺跡』Ⅱ（『京都府遺跡調査報告書』第30冊　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）　2001

注２　『八幡市誌』第１巻　八幡市　1986

注３　桝井豊成・赤松一秀「幸水遺跡（第１・２次）発掘調査概要」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第25集　八幡市教育委員会）　1998

注４　桝井豊成ほか「女郎花遺跡（第３・５次）発掘調査概報」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第28集　八幡市教育委員会）　1999

注５　引原茂治「２.柿谷古墳・美濃山遺跡」（『京都府遺跡調査報告集』第146冊　財団法人京都府埋蔵文財

調査研究センター）　2011
注６　『志水廃寺発掘調査報告』（『八幡市文化財調査報告』第２集　八幡市教育委員会）　1978
『西山廃寺（足立寺）発掘調査概報』八幡市教育委員会　1971
注７　西田直二郎・赤松俊秀「八幡町志水瓦窯址」（『京都府史跡名勝天然記念物調査報告』第17冊　京都府）1937
注８　八十島豊成「上奈良遺跡発掘調査概報（第４次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第35集　八幡市教育委員会）　2003
注９　江谷寛『美濃山廃寺発掘調査報告』（『八幡町文化財調査報告』第１集　八幡市教育委員会）　1977
注10　『美濃山廃寺下層遺跡発掘調査概報』　八幡市教育委員会　1987
注11　八十島豊成・大洞真白・塩貝泰洋「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第30集　八幡市教育委員会）　2000
注12　大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第２次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第31集　八幡市教育委員会）　2001
注13　大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第３次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第32集　八幡市教育委員会）　2002
注14　八十島豊成・大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第４次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第34集　八幡市教育委員会）　2003
注15　八十島豊成・大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第５次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第37集　八幡市教育委員会）　2004
注16　大洞真白『美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（１～５次）報告書』（『八幡市埋蔵文化財発掘調査報告』　第32集　八幡市教育委員会）　2002

付表２　遺物観察表

図面番号	トレンチ	遺構	器種	器高（残存高）	口径（底径）	残存率	胎土	焼成	色調	備考
1	4tr	調査区壁	陶器灯明受皿	（1.85cm）	11.2cm	1/4 強	密	堅緻	断面：2.5GY5/1 灰白色 釉調：5Y7/1 灰白色	－
2	7tr	調査区壁	弥生高杯	（4.1cm）	－	全周	やや粗	良好	2.5Y7/4 浅黄色	摩滅著しい
3	7tr	調査区壁	弥生高杯	（4.1cm）	－	全周	やや密	良好	2.5Y6/1 黄灰色	第Ⅲ層
4	6tr	調査区壁	染付椀	（3.25cm）	6.05cm	1/2 強	密	堅緻	断面：白色 釉調：透明（薄く青みがかる）	第Ⅱ層
5	7tr	調査区壁	弥生高杯	（3.2cm）	－	1/3	やや粗	良好	2.5Y7/4 浅黄色	第Ⅳ層
6	8tr	北斜面	須恵器杯Ａ	（2.2cm）	（6.4cm）	1/4 強	やや密	堅緻	N7.5/0 灰色	－
7	8tr	南斜面	土師器皿	－	12.0cm	1/6 弱	密	堅緻	10YR7/3 にぶい黄橙色	煤付着
8	6tr	SK05	青磁椀	（2.1cm）	－	小破片	密	堅緻	断面：N8/1 灰白色 釉調：2.5GY5/1 オリーブ灰色	－

図面番号	トレンチ	遺構	種別	残存長	器厚	残存率	胎土	焼成	色調	備考
9	7tr	調査区壁	丸瓦	（7.7 × 5.2cm）	－	－	やや粗	良好	10GY5.5/1 緑灰色	第Ⅲ層
10	6tr	SK02	平瓦	（6.0 × 5.1cm）	2.0cm	－	やや粗	良好	7.5Y7/1 灰白色	－
11	7tr	調査区壁	瓦	（6.0 × 4.9cm）	1.6cm	－	やや粗	やや良	2.5Y6/1 黄灰色	－
12	7tr	落ち込み	打製尖頭器	7.25cm × 2.0cm	0.9cm	ほぼ完形	－	－	暗灰色	サヌカイト
13	6tr	調査区壁	石包丁か	（4.4cm × 2.2cm）	0.45cm	－	－	－	黒灰色	粘板岩・第Ⅱ層

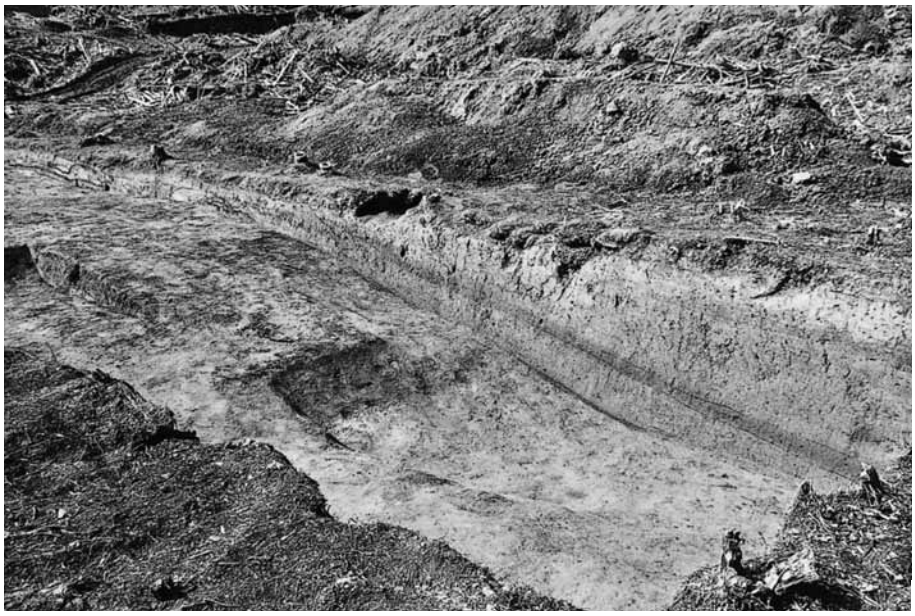
図　　版

(1)美濃山廃寺下層遺跡第８次調査地全景(上が北)

(2)美濃山廃寺下層遺跡第８次調査地全景(上が東)

(1)第１トレンチ検出状況(南から)

(2)第２トレンチ西壁

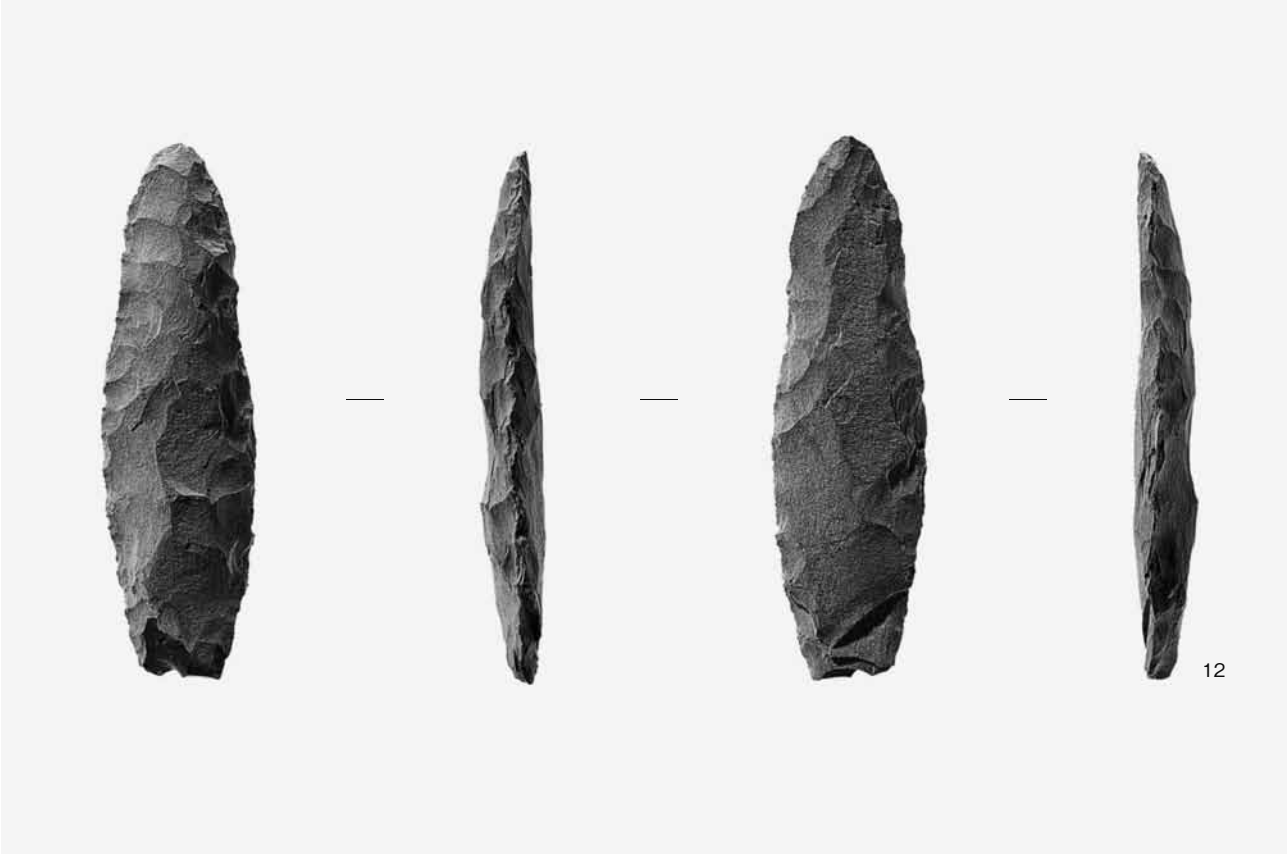


(3)第３トレンチ西壁

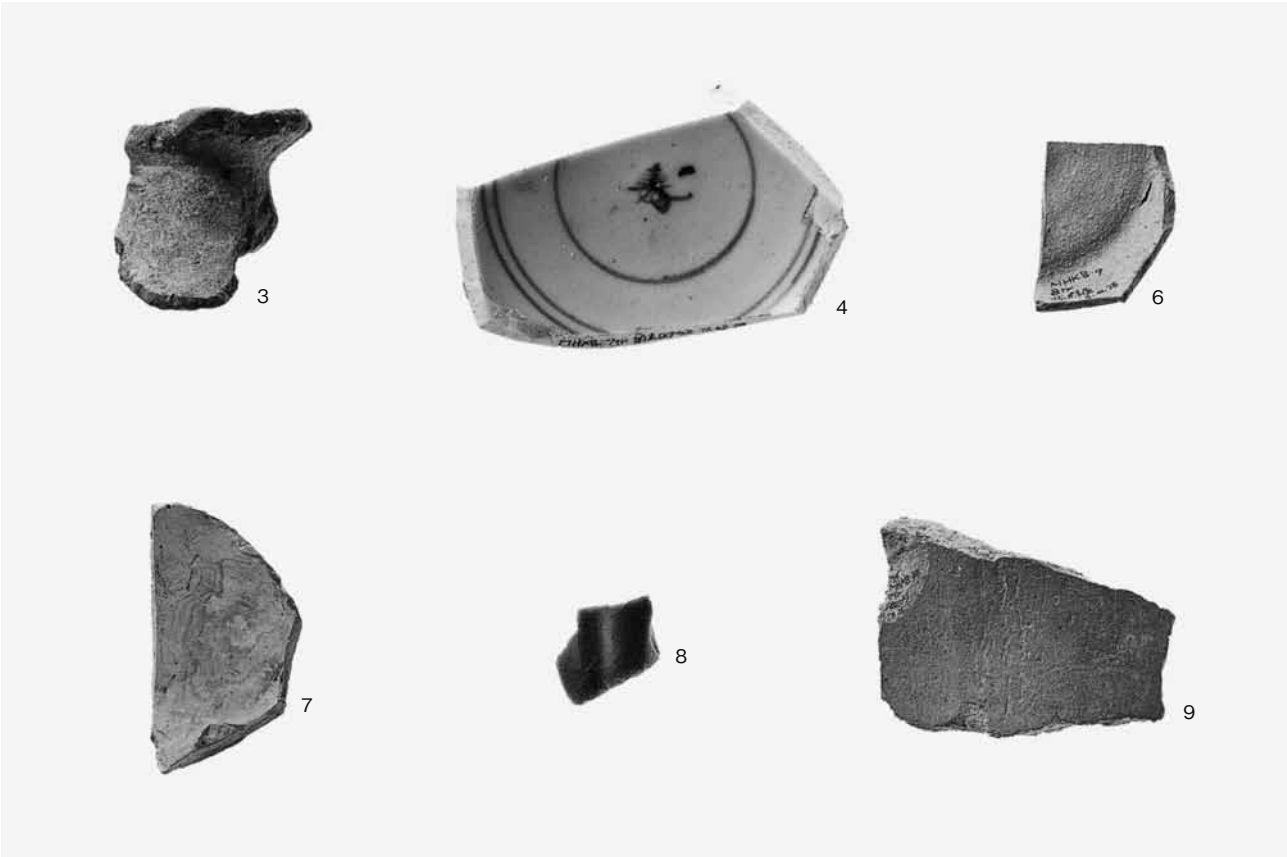
(1)第７トレンチ第Ⅱ層
染付碗出土状況

(2)第７トレンチ落ち込み掘削状況
（南から）

(3)第８トレンチ溝状遺構検出状況
（西から）



(1)出土遺物１



(2)出土遺物２